

第一次上田市総合計画に掲げる「基本理念」「まちの将来イメージ」

まちづくり基本理念

将来像 ～キャッチフレーズ～

日本のまん中 人がまん中 生活快適都市

～水跳ね 緑かがやき 空 こころ 晴れわたるまち～

おおむね10年後の上田市の将来像をキャッチフレーズ(短い文章で表現したもの)として次のように掲げます。

将来像に込めた思い

「日本のまん中」

長野県東部の中心都市として、国内外、地域の内外に発信し続けることを表現しています。

上田市郊外に鎮座する生島足島神社は、古くから「日本中央」と称されてきたほか、真田一族、自由大学、農民美術、蚕糸業、そして現在の先端技術産業や特産品、観光名所など、上田市が、さまざまな分野で国内外へ大きな影響を与え続けてきたことも表現しています。

「人がまん中」

「市民が主人公である」ということであり、この地域で言う「ずく」(ものごとに立ち向かう気力や勇気などを表す方言)を出して、自らの地域を自らで良くしていこうという自立の精神を基調とした、上田市が根幹と考えるべき住民自治の在り方を表現しています。

「生活快適都市」

住む人、訪れる人が豊かで快適な時間を過ごすことができる空間を表しているものですが、それを支える経済的な豊かさや文化的な背景、そして安全・安心に過ごせるさまざまな生活基盤が整っていないと成り立たない概念でもあり、そういった幅広い意味を込めて表現したものです。

「水跳ね 緑かがやき 空 こころ 晴れわたるまち」

緑豊かな森林など恵まれた自然環境を引き継ぎ、将来にわたって、すべての人が青空のような澄みきった心で時を過ごせるまちであることを願い、表現したものです。

基本理念

将来像の実現に向けてまちづくりに取り組む際の基本的な考え方を「基本理念」とし、自立と協働、循環と交流、創造と調和をキーワードとして掲げます。

ア 自立と協働

～まちづくりを行う際に、どういう考えかたに基づいて行動すべきか、ということを表しています～

わたしたちが自ら考え行動し、地域の個性が光り輝く「自立」するまちをつくれます。

みんなで知恵を出し合い汗をかき、行動する市民・団体・企業・行政など多様な主体が「協働」するまちをつくれます。

イ 循環と交流

～まちづくりを推し進め、発展させるためにはどういう手段をとればいいのか、ということを表しています。～

上田市のさまざまな地域資源を活用・共有し、「循環」させながら活力をはぐくみ、まちを発展させていきます。

上田の魅力を国内外へ力強く放ち、心触れ合う「交流」を深めながら、まちを発展させていきます。

ウ 創造と調和

～まちづくりを行った結果のあるべき姿はどのようなものか、ということを表しています～

みんなが元気で、安全・安心・快適に暮らせる持続可能な社会を「創造」し、新たな世代へ引き継ぎます。

個人や地域の多様性を認め合い、自然環境や地域文化との「調和」を大切にし、新たな世代へ引き継ぎます。

基本理念



まちの将来イメージ

基本理念に基づきまちづくりを進め、おおむね10年後、次のようなイメージのまちになることを目指します。

- (1) **社会環境の変化に強い、自立するまち**
地域の産業を盛り上げながら、協働で新しい上田の地域社会を営みます。
- (2) **豊かな自然にはぐくまれ、人々が行き交うまち**
多様な地域資源を大切にし、その個性を伸ばしながら交流の輪を広げます。
- (3) **上田市に住む誇りと満足感が得られるまち**
過去から未来に脈打つ文化を大事にし、新たな価値を生み出しながら、まちにかかわる人の環を広げます。



まちづくりの大綱

- (1) コミュニティ・自治 ~ 認め合い 自ら動き 個性きわだつ ~
- (2) 産業・経済 ~ 知恵集め 技術磨き 未来ひらく ~
- (3) 自然・文化 ~ 水跳ね 緑かがやき 文化はぐくむ ~
- (4) 生活環境 ~ 生活快適 住んでよかった ~
- (5) 健康・福祉 ~ 支え合い 健やかに 女男いきいき ~
- (6) 教 育 ~ 学び 育ち 人かがやく ~

まちづくりの大綱

将来像を実現していくために必要な施策の方向（大綱）を次のように定めました。

(1) コミュニティ・自治 ～認め合い 自ら動き 個性きわだつ～

地方分権一括法の施行により地方自治体の役割が変化し、今までに比べて権限と責任が強化されていきます。この新しい時代を突き進むためには、知恵を出し、汗をかきながら、満足感・達成感の得られるコミュニティ活動を展開する必要があります。

都市部から農村部まで、コミュニティ活動を充実させ、さまざまな能力を持った市民の地域への主体的なかかわりを求めています。また、分権型自治にふさわしい新しい地域経営方式を構築するとともに、市民同士や市民・行政間の垣根を作らず、互いに連携できる体制を整備しながら、一体となった取組を進めます。

(2) 産業・経済 ～知恵集め 技術磨き 未来ひらく～

上田市では、大学等研究機関と企業の共同研究開発を推進する産学官連携支援施設（AREC）や地域企業を結ぶネットワーク「AREC プラザ」をはじめとする産学官連携の基盤が整っています。

また、農畜産物、商業集積、別所温泉をはじめとした温泉地や文化財、景勝地などさまざまな地域資源があり、このような地域資源を有効に活用していく必要があります。

工業、農業、商業、観光の四つの柱を軸に、産学官に加え、地域住民を交えた連携体制を整えながら、地域間競争にも対抗できる新しい産業への転換を図り、未来に向けて持続的な発展を目指します。

(3) 自然・文化 ～水跳ね 緑かがやき 文化はぐくむ～

上田市は、菅平と美ヶ原の二つの高原、緑あふれる里山、その山々を源とする清らかな水にはぐくまれた地域です。また、岳の幟、三頭獅子、戸沢のわら馬引き、御柱祭などの伝統行事や山本鼎らによる農民美術などの独自の文化が受け継がれているとともに、真田一族や蚕糸産業の隆盛など誇りある歴史があります。

今日まで豊かな恵みをもたらした自然や文化に感謝する心を持ち、

地域全体で大切に守りながら、次の世代へ引き継いでいきます。

更に、信州国際音楽村などの文化施設を地域の文化・芸術活動の振興に向けて活用するとともに、より広範な市民が集える交流・文化拠点を整備することによって、それぞれの機能を生かしながら、新たな文化を創造していきます。

(4) 生活環境 ～生活快適 住んでよかった～

上田市の中央には千曲川が流れており、その兩岸を結ぶ道路を中心とした朝夕の交通渋滞が問題となっています。

また、電車やバスといった公共交通機関の利便性向上・利用促進により、市民の移動が安全・円滑に進むよう、交通体系に関する課題の解決に向けた総合的な交通対策を早急に進める必要があります。

更に、下水道の普及やごみの減量化、あるいは都市景観の形成といった住環境の向上を図るとともに、廃棄物処理事業や救急・防災業務についても関係市町村との協力体制をより強化しながら、豊かさが実感できる清潔で安全・安心な暮らしの実現を目指します。

(5) 健康・福祉 ～支え合い 健やかに 女男いきいき～

住民の健康増進に向けた取組が、これまで先進的に行われてきました。また、地域医療の確保を図るため、関係機関と連携し、体制の整備を進めてきたのをはじめ、自立した生活を支える福祉施設なども整備されてきました。

更に、地域・各種団体・行政など、みんなで健康づくりや福祉を補完し、支え合う取組が展開されつつあります。これらの実績を生かし、少子高齢化が進む現在において、みんなが等しく健康で、生きがいを持ちながら、いきいきと健やかに暮らすことができる社会の形成を目指します。

また、性別・年齢・地域などを越えて、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが実りある人生を送れるよう共に支え合う社会づくりを目指します。

(6) 教育 ～学び 育ち 人かがやく～

上田市では、信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校といった大学を軸とした学術研究都市機能や、

六つの高等学校をはじめとする学校教育施設のほか、市民が生涯にわたって学習することのできる施設が各地域に設置されるなど、初等教育から高等教育、社会人教育に至るさまざまな取組が展開されてきています。

まちづくりに関するすべての取組の基礎は“人”にあります。そのために、家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの「生きる力」をはぐくんでいく必要があります。更に社会教育分野においては、大学などの高等教育機関とも連携しながら、さまざまな学習ニーズに応え、個人の能力を地域のために生かせる、新しいまちづくりを担う人間性豊かな人材を育成します。